つくしだより

平成２８年３月号

東京都精神障害者家族会連合会
（東 京 つくし会）
〒156-0056 世田谷区八幡山
3-33-1 林マンション 301
TEL/FAX:03－3304－1108
http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/
発行者 眞壁 博美

２０１６．３．１５ 第３０８号

みんなねっとフォーラム２０１５『親あるうちの自立をめざして』に参加して

都連理事　中住孝典

みんなねっとフォーラム２０１５が池袋の帝京平成大学を会場として３月１日に開催されました。会場は500～600人もの人が集まり盛況でした。一部は『精神障がい者と家族～それぞれが自立し、ささえあうために～』をテーマとして東洋大学ライフデザイン学部教授（精神科医）の白石弘巳氏が講演をされました。以下、講演の内容を要約します。

少子高齢社会を迎えた今日、精神疾患をもつ人とその家族の高齢化の問題は喫緊の課題となっています。その状況を踏まえ、早急に具体的な改善策を立て、実行に移していく事がまさに求められており、国の施策として 精神障害者と家族の問題を併せた地域包括ケアシステムの構築 の必要性を強く訴えられました。また①精神疾患による障がい特性に対する理解が必要であり、疾患によって生じた障がいは、医学的治療では治せなくても支援の方法や施策の有り様によっては十分に社会参加を実現することが可能ということ。②望まれる支援の基本的な考え方は「良いコミュニケーションに根ざした良好な関係なくしてよい支援はあり得ない」として当事者・家族・支援者のコミュニケーション力を高めることの必要性やウイッシュ（本人の希望）を大事にした関わりをすることが本来必要なこと（ニーズ）をかなえる支援に繋がっていくという、関わりを考える上で非常に示唆に富んだお話もありました。

オープンダイアログという日本でも注目を集めているフィンランド発の家族療法の紹介もあり毎日一定時間会話をするだけで薬を飲まなくても統合失調症などの精神病がかなりの確率で回復する等の話もありました。当事者のリカバリーの秘訣としても

（a）自分の力に対する信頼の獲得
（b）家族の温かいサポート
（c）よき治療者との出会い
（d）良き仲間との出会いなど精神障がい者のリカバリーに必要なものは人との信頼関係とコミュニケーションがいかに大切かが、講演を通して一貫されていたように思います。

２部のシンポジウムは『自立のための支援～さまざまな支援のかたち』をテーマに

・「家族会」の現場から：みんなねっと理事長本條義和氏
・「英国メリデン版訪問家族支援」の現場から：五稜会病院看護部長吉野賀寿美氏
・「訪問看護ステーション」の現場から：Ｋ・Ｋウイズユー與那覇五重氏
・「生活支援」の現場から：ＮＰＯ法人全国精神障害者地域生活支援協議会代表伊澤雄一氏がシンポジストとして話されました。本條氏からは家族支援の重要性と家族が関わる家族支援として①精神障がい者相談員制度の法制化②家族による家族学習会の有用性③オープンダイアログとメリデン版訪問家族支援など多職種専門による訪問型支援の必要性が語られ、それを受ける形で吉野氏からはメリデン版訪問家族支援の試行の現状報告がありました。国内での普及が望まれるところです。訪問看護ステーションは精神障がい者の在宅生活を支えるサービスとして大切な役割を果たしていますが、譽那覇氏は活動報告を通して、改めてその有用性と課題の整理をされました。伊澤氏は精神障がい者が生活者として自立した生活を支援する際の大切な視点として自己選択・自己決定・自己責任に基づく「その人らしく暮らす」ことへの保障が必要であり、生活と支援の現場リアリティーを政策に反映させようと訴えました。

家族会も多くの支援機関と連携し、親あるうちの確実な自立を希望と勇気をもって更に進めていきたいと感じたフォーラムでした。

東京都精神保健福祉相談事業講演会報告

都連理事　鈴木　孝男

平成28年2月19日（金）東京都と東京都精神保健福祉民間団体協議会（都精民協）主催で東京都精神保健福祉相談事業講演会が都庁第一本庁舎5階大会議場で「日本の精神保健を外から見れば～イタリアの実践に学ぶ～」をテーマに都民対象で行われました。参加した人は約250名で、当事者、家族、精神保健福祉諸関係従事者と一般都民の参加がありました。

主催側から東京都福祉保健局障害者施策推進部木下課長の挨拶があり、精神障害者の地域移行に向け都は都民の理解を深め地域、家族、精神障害者福祉関係者の協力を得て推進をすると挨拶がありました。

講演は東京大学教養学部卒業後朝日新聞記者になり、大阪大学大学院を経て現在、精神保健分野のジャーナリストとして活躍している大熊一夫氏に、イタリア、トリエステでの地域支援体制実情の見識を深めた内容の報告がありました。日本の精神保健を振り返り、行政側だけでなく国民が取り組む課題を提示されました。1950年代後半、欧米諸国で精神科医が精神医療の問題を提起し始め、アメリカでは「カッコウの巣の上で」で問題提起された州立病院の実態について著名な精神科医達が調査報告書を出しました。1963年アメリカ大統領ケネディーは議会で特別演説を行い地域精神保健への移行を提示し、精神病院政策を変更しました。イタリアでは1961年県立病院院長に就任したフランコ・バザーリアが「入院患者が物体扱いされている」と批判し、「患者は自由意志も自己決定もある一人の人間」であると提起し、地域生活移行の促進を提唱しました。日本では1960年日本医師会長武見太郎が精神病院に多発する不祥事件に関連し「精神病院は牧畜業者」発言があり精神病院政策を批判しました。イタリア・トリエステでは180号法を作り精神科病院政策を変え精神科入院の制限と入院患者の地域生活移行、地域精神保健サービスの推進、地域精神保健サービス機関（地域保健センター）の強化を打ち出し、精神障害者の地域生活支援を促進しました。精神保健福祉センターは地域の精神保健に対し責任を持ち、諸々のサービスを保障し、地域生活をするための保障を徹底し、人と時間、費用を保障し、入院しなくてもすむ、きめ細かいサービスを行っていると述べられました。参加者の意見としてイタリアのように日本も地域支援に経済的・人的保障をして欲しいとの意見がありました。これからの課題を提起された講演としてとても参考になりました。

三単会合同施設見学を終えて

都連理事　徳山　尚子

去る2月10日（水）、東京つくし会東地域の三単会が調布のクッキングハウスに施設見学に行ってきました。発端は、昨年の10月16日、有楽町マリオンで開催されたみんなねっと関東ブロック大会で松浦氏の話を聞いた中央区つつじ会のお母さんがどんなところか行ってみたいとおっしゃったことがきっかけでした。暮れもおしつまってから、江東区あかつき会の丸山会長さんにバスで施設見学を考えているがご一緒にいかがでしょうかとご相談したところ、ご快諾いただき、意を強くして足立区あしなみ会の石川会長さんにもお話して、三つの単会が一緒に施設見学をすることになりました。

クッキングハウスは全国からの見学希望に対して、毎月見学日を設けています。2月は10日。申し込みをしてから各単会ごとに参加者を募り、バス会社と調整して慌ただしく当日を迎えました。バスの順路に各単会の乗降地を設けたことで参加しやすかったという声に企画担当としてホッとしました。

好天に恵まれ、3単会の協力で初の試みが成功したことを各会長さんはじめご参加いただいた皆様に感謝しています。クッキングハウスの皆さま、お世話になりました！

西ブロック会議がありました

都連副会長　本田道子

東京つくし会に所属している52の家族会はそれぞれの地域によって東・西・多摩のブロックのいずれかに所属しています。私の「渋谷太陽の会」は西ブロックです。西ブロックは新宿フレンズ・中野たんぽぽ会・豊島家族会・榎の会・大田つばさ会・品川かもめ会・世田谷さくら会・あかね会・藍工房家族会・杉並家族会・そして渋谷太陽の会の11単会です。毎月当番の家族会を決め、当番は会場の確保、茶菓子の準備、当日は会場設営、受付、会議の司会などを担当しています。

今回は大田つばさ会が当番でした。蒲田駅近くの消費者生活センターにて、つばさ会より9名の方が参加されて、皆様のお世話をしてくださいました。

前半は都連からの報告・連絡で後半は各単会からの報告・提案です。都連会長の挨拶のあと、交通運賃割引署名の件（紹介議員要請を含む）、都連名称変更の件、現在進行中の中学生向けリーフレットの件などが話し合われ、都連と単会が連携を密に取り組まなければならない課題ばかりです。

後半は、杉並区では家族会のがんばりでマル障について区議会が都知事へ意見書を提出したということ、都連も来年度はやらねばと思いました。中野区・大田区の障がい者福祉手当についての報告もありました。来年度予算に注目です。大田区は今年4月から施行される障がい者差別解消法に向けて条例整備をされている由。ん？わが渋谷区では？

皆様の区・市町村もチェックしてください。

「平成27年度東ブロック家族相談員養成講座」並びに「第3回東ブロック会議」が開催されました

都連理事　塚本邦之

2月28日（日）午前中に「家族相談員養成講座」午後には「東ブロック会議」が文京区シビックセンター障害者会館で開催されました。

9家族会から26名が参加しました。

午前では、参加した皆さんは熱心に相談事例を理解して、その内容に最善な解決策を勉強しました。中でも話題となったのは、病院内で当事者が暴力行為を行ったことが原因で退院を強要されたというケースでした。暴力行為を抑える治療がなされなければ、家族も途方に暮れてしまいます。解決策としては、病院と十分に相談して転院を選択できるということでした。

午後の会議は精神保健福祉士で臨床心理士の小谷野氏による「家族会と行政」についての講和で始まりました。

その中で家族会に欠かせない4つの点が指摘されました。

① 会員が相互に支え合うことで、それが会員の最高の支援になることです。

② 相互に意見や経験を交換し合い、知識や技術を磨いて治療や生活に役立たせることです。

③ さらに、医療や福祉の分野で何が必要かを知るために、デイケアサービスや各種の施設を訪問して、具体的な知識を学習することです。

④ また、公的機関や区や市などの各分野の人たちの支援を求めることをためらわないという姿勢が大切ということです。

発達障がい関連団体交流会に参加しました

都連副会長　本田道子

東京都自閉症協会が毎年２月に主催する交流会に参加しました。

今年は17団体の参加がありました。発達障がいについては行政側のトスカ、東京都発達障害者支援センターがあります。子どもについては各区市町村の子ども発達支援センターがありますが、成人になってしまうときちんとした窓口がなく私たちの状況と似ています。発達障がいにもそれぞれのタイプがあるので、それに対応した当事者の会や親の会の団体が生まれているということです。

今年は「全国言友会連絡協議会」の参加がありました。吃音の障がいから社会参加が困難になっている当事者の会です。

障害の状態はさまざまでも、社会にアピールし続けてゆかなければ何も変わらないという点では共通点はたくさんあります。

今はまだ点と点だったり細い糸でやっと結ばれている自閉症協会さんとのつながりも、お互いにもっと逞しくなれたら手をつないで協力してゆきたいと強く願ったことでした。

都の施策や情報交換の時間が取れず、残念に思いながら散会となりました。

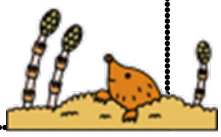
講演会のお知らせ

☆4/2(土)　みんなでやろう　家族ＳＳＴ
講師：高森　信子 氏　主催：サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

☆4/9(土)　精神疾患の正しい治し方　主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788
講師：東邦大学医学部精神神経医学講座教授　水野　雅文　氏

☆4/23(土)　通過型グループホーム　10年の実践から見えてきたこと
講師：山口　さとる氏（グループホーム　いちごLiving　施設長）
主催：世田谷さくら会　☎03-3308-1679

※参加申込み･お問合せは、主催者までお願いします。



☆賛助会員（敬称略）

西田　充　２０００円
巡田クリニック　１０００００円
恩方病院　１０００００円
大内病院　１０００００円
ありがとうございます。

編集後記

暦ではすでに立春が過ぎましたが、立春とは春が始まった第１日目という意味だそうです。２月と言えばまだ寒い盛り、なぜこの時期に立春があるのだろう？私なりに考えましたが、これは春になるための大切な準備期間も含まれているということなのでしょう。２月という最も寒い時期に春になるための準備をしっかり行うことであの暖かい、心地よい春が訪れてくるのです。各地の家族会で行っている活動、当事者の方やご家族が精神という病気と向き合いながら懸命に生きようとする姿はまさにこの立春の姿に似ています。厳しい時は多いかもしれませんが必ずそれぞれの春が来ると私は信じています。２月21日青梅市で全国的にも有名な「青梅マラソン」が開催されました。スターターは30kmの部瀬古利彦さん、10kmの部は高橋尚子さんでした。私の勤めている作業所からも男性メンバーが30kmに挑戦しましたが、制限時間内に完走できず、あとで「完走できませんでした！」と悔しそうに言っていた姿が美しかったです。一生懸命にやった姿はどこかで報われるし、人に感動を与えます。２月23日青梅家族会“ほっと・スマイル”の定例会がありました。年に１回は必ず市の保健師さん達との懇談会を開き、身近な関係作りを行うことに決めています。顔の見える関係を大事にして行きたいと思います。　都連理事　中住孝典

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。